

# 品質・ 安全対策 I

## Latest Trend of Food Safety Management System

# 食品安全マネジメントシステム の最新動向

編集部

食品安全マネジメントシステムはGFSI承認規格の登場でさらに新しい局面を迎えている。食品業界では05年に発行されたISO22000が普及し始めていたが、食品の国際流通に大きな影響を持つGFSIが食品安全確保のためのベンチマーク規格としてFSSCやSQFなどを掲げ、サプライチェーン全体での活用を呼びかけ始めたことで、GFSI承認規格が大きな影響力を持つようになった。この1年はFSSC認証取得の動きが加速化し、大きく取得件数も伸びたが、今後もFSSCが伸び続けるかについては不透明だ。本稿では、食品安全マネジメントシステムの国内の現状と今後を探る。

## この1年はFSSC22000の認証取得が大幅増

食品安全マネジメントシステムとして2005年に発行されたISO22000の認証取得件数(セクター数)は、年々増加し、2013年2月末でJAB認証で約555件、非JAB認証をあわせると約780件の認証が行われているとみられる(図1)。一方、FSSCは昨年同時期の70件から、今年2月末で370件(組織数では約300件と推定される)と大幅に伸びており、この1年は多くがFSSC認証を目指したことがわかる。この1年の認証取得組織のうちISO22000のみの取得にとどまったのは現在FSSCのセクターにない業種など特殊な場合だ。FSSC認証とISO22000認証を切り離している審査機関もあるが、FSSCを取得した折に

ISO22000の認証登録も行うケースが多く、新たにFSSCの認証を取得した企業のうち半数以上はISO22000の認証も取得しているとみられる。

FSSC22000の認証登録はコカ社のボトラーが先陣を切り2010年から始まり、原料サプライヤー、容器サプライヤーと拡がりを見せて昨年秋まで増加してきたが、同社への直接のサプライヤーがほぼ認証取得を終了した現在は、原料サプライヤーの取り引き会社へと拡がり、さらに海外への輸出を考えて認証取得を目指す企業や、大手流通との取り引きを考慮しての取得へと拡がりを見せている。

FSSC22000の認証件数の増加は世界の中でも東アジア(とくに日本と中国)で顕著で、2013年1月末現在の認証セクター数では中国(384)、日本(376)、米国

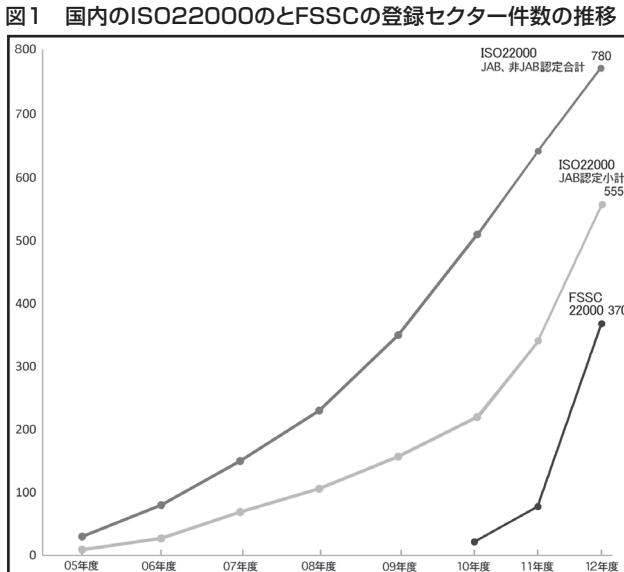
FSSC22000以外にもSQF（レベル2）やBRC、IFS、Global Gapなどがあり、これらは食品の安全管理という点では同じだが全体の構成要素は多少異なり、ISO22000とPAS220の組み合わせというわかり易さとISO22000の審査を行っていたJAB認定機関がこぞって審査を開始したことでFSSC22000が日本では最も広がっている。

## FSSC22000の認証は増え続けるか?

また、2011年に制定され、昨年から日本でもFDAの試験的査察が始まっている「米国食品安全強化法(FSMA)」では、バザード分析と予防措置、モニタリング、検証などのHACCP的な管理とともにマネジメント要素が求められており、現時点ではISO22000やFSSC22000との関連について触れていないが、当然内容的にはFSMAで求められる管理とISO22000やFSSC22000は近いところにあり、米国輸出を考えた場合にもISO22000、FSSC22000の認証取得は役に立つ可能性はある。

流通・メーカーとの取り引きや輸出がしやすくなるなどのFSSCの認証のメリットが考えられる一方で、これ以上の拡がりを疑問視する声もある。

FSSC認証取得件数は、向う1年は増えそうだが、その先の動きは予測づらい。現在、GFSIベンチマーク規格を納入先に要請しているコカ社やイオン（一部製品で要請）以外のGFSIメン



食品と開発 VOL. 48 NO. 4